河川改修事業事前評価調書

<table>
<tr><td colspan="2">路線・河川等名</td><td colspan="2">一級河川菰川（こもがわ）</td><td>事業名</td><td>緊急自然災害防止対策(河川)事業</td><td>補助・単独の別</td><td>単独</td></tr>
<tr><td colspan="2">事　業　主　体</td><td>京都府</td><td>事業箇所（区間）</td><td colspan="4">亀岡市薙田野町佐伯（ひえだ の ちょうさえき）　地内</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業概要</td><td>目　　的</td><td colspan="6">一級河川淀川水系菰川は桂川の三次支川で、亀岡市西部を流れる小河川である。最下流の山内川合流点～大門橋についてはH24までに改修が終わっているが、大門橋上流については未改修となっており、洪水による隣接田畑の浸水等が懸念される。そのため、計画確率降雨（1/3）による洪水を安全に流下させられるよう河道断面を拡大する。</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="6">整備延長：L=450m
掘削：V=6,100m3、ブロック積：A=2,400m2、緩傾斜型落差工：N=3基
事業費：約3.5億円</td></tr>
<tr><td>上位計画等</td><td colspan="6">京都夢実現プラン 南丹地域振興計画
淀川河川整備基本方針</td></tr>
<tr><td>事業の必要性</td><td>事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等</td><td colspan="6">○過去に本川下流部からの溢水により、家屋の浸水被害があったため、強い地元要望がある。
○本工区下流は整備済みで、一連での整備効果の発現が期待できる。</td></tr>
<tr><td>事業の有効性</td><td>事業の効果及び費用対便益等</td><td colspan="6">○河川の流下能力を向上させることで、流域の人命や財産を洪水被害から守ることができることから、投資効果は大きい。</td></tr>
<tr><td>事業の効率性等</td><td>コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全</td><td colspan="6">○河道拡幅を目的にした掘削を行うため、掘削土を亀岡市内のほ場整備に流用することで、コスト縮減に努める。
○環境改変の影響を小さくするために、生息する魚類の遡上を妨げない緩傾斜型落差工を採用する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">総合評価</td><td colspan="6">本事業は、洪水から人命や財産を守り、地域の安全・安心を確保するため、新規事業着手の必要がある。</td></tr>
</table>

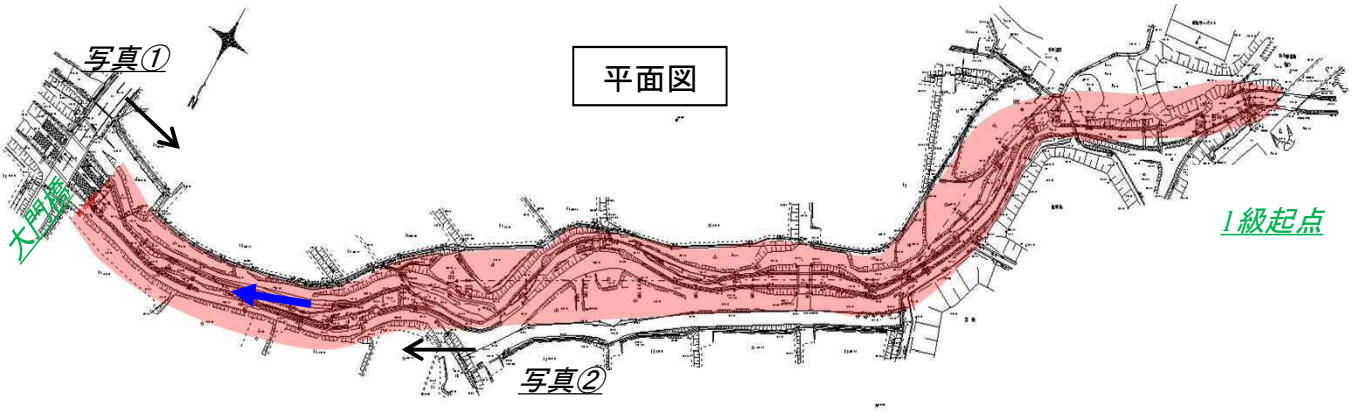
一級河川　菰川（こもがわ）　緊急自然災害防止対策事業

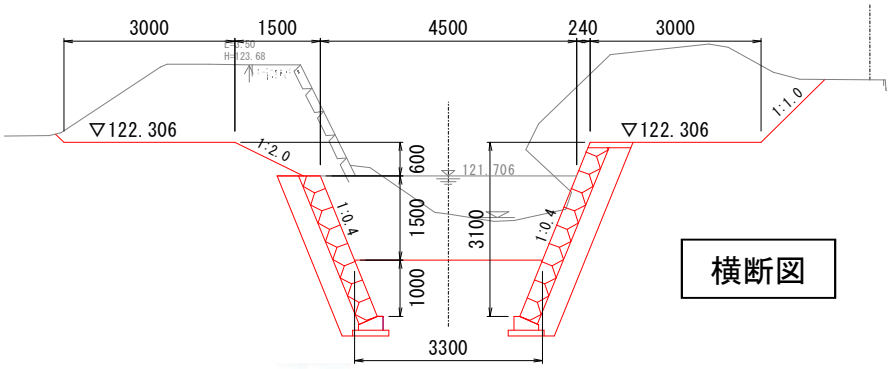
京都府　亀岡市　薙田野町佐伯（ひえだのちょう　さえき）

○事業目的

一級河川淀川水系菰川は桂川の三次支川で、亀岡市西部を流れる小河川である。最下流の山内川合流点～大門橋についてはH24までに改修が終わっているが、大門橋上流については未改修となっており、洪水による隣接田畑の浸水等が懸念される。そのため、計画確率降雨（1/3）による洪水を安全に流下させられるよう河道断面を拡大する。

実施内容	：整備延長：L=450m 掘削：V=6,100m3、ブロック積：A=2,400m2、 緩傾斜型落差工：N=3基
事業期間	R4～
事業費：	約3.5億円





『環（わ）』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和　4年　3月　22日
作成部署	建設交通部河川課

事業名	一級河川菰川　緊急自然災害防止対策（河川）事業	地区名	亀岡市薙田野町佐伯　地内
概算事業費	約 3.5 億円	事業期間	
事業概要	整備延長：L=450m、掘削工：V=6,100m3、護岸工：A=2,400 ㎡、緩傾斜型落差工：N=3 基		
目指すべき環境像	当該箇所は亀岡市西部を流れる１級河川淀川の支川で、隣接では国営ほ場整備事業が実施され、事業実施に当たっては自然環境への配慮が必要である。 また、現況河川では洪水による隣接田畑の浸水等が懸念されるため、流域住民の安全・安心を確保するとともに、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。		
関連する公共事業	国営亀岡中部農地整備事業		

評価項目	主要な評価の視点	選定要否	施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
地球環境・自然環境	地球温暖化（CO_2 排出量等）		現況河道が蛇行し、既存石積みが老朽化していることから、洪水氾濫や破堤の恐れがある。 付近には魚類の生息が確認されているが、落差工により縦断的な連続性が損なわれている。	河道の付け替え及び護岸整備により流下能力の向上を図る。 魚類の遡上に配慮し、緩傾斜型落差工を整備する。	
	地形・地質	○			3
	物質循環（土砂移動）				
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系	○			4
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		上流及び下流域に人家等が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。 また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 また、掘削土は当該工事や亀岡市の別地区のほ場整備と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	田園を主体とした豊かな自然環境に恵まれていることから、環境改変を最小限に止める必要がある。	護岸材料の選定においては、自然環境との調和を図るよう努める。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働				
	その他				

外部評価	